

---

# 雨空

ムネソラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨空

### 【コード】

N0138Q

### 【作者名】

ムネソラ

### 【あらすじ】

中堅会社でOLをしていた高山東子宛に、ある日電話がかかってきた。ある出来事に直面した30代OLの心境を描いてみた作品。

(前書き)

中堅会社でOLをしていた高山東子宛に、ある日電話がかかってきた。

電話がかかってきたのは午後の業務が始まって間もなくのことでした。

「もしもし、高山東子さんでしょうか？ ……」

内線1番をおして受話器から聞こえてきたのは落ち着いた女性の声。私はその電話を切ると、早退の許可も取らずに会社を出て、タクシーを拾いました。

今日は朝から天気が悪くて、ジメジメと不快な曇り空。だから朝から重苦しいような、嫌な感覚を持っていたのです。

こんなことになるなんて……。

いやな予感ほど、的中してうれしくないものがあるでしょうか？

タクシーはいつの間にかビルの中を抜けて、大きな橋を渡るうとしてしまいました。

都会で暮らしていると、なかなか広い空を見ることができません。だからこんな曇り空でも、橋をわたるときに見える景色はなんだかぼつと心を落ち着かせてくれます。

「彼は大丈夫……」

小さな声でそう自分に言い聞かせました。

橋を渡り終えた頃にとつと雨がぼつぼつと降ってきて、タクシーの窓ガラスに線を書き始めます。

「まだ掛りますか？」

「ああ、距離で言えばもう少しなだけだね、ここら辺から道が混むんですよ」

タクシーの運転手が言うには、あと30分はかかるそうでした。いくら混んでいるとはいえ、歩くよりはまだタクシーに乗っていた方が早いでしょう。

ガラスの向こうを見れば、雨がしとしと降っていて、すっかり雨の街になっています。

「ねえ東子、彼のこと許してあげたら?」「誰になんと云われようと彼が謝るまで絶対許さないんだから」

彼とはもう一ヶ月連絡を取っていませんでした。些細なことで喧嘩して、お互い引つ込みが着かなかつた。母に会う度に結婚のことを聞かれ、私もそろそろそういう考えを持ち始め……。だからなかなか結婚のどこを切り出そうとしない彼に、ちよつと苛立っていたのかも知れません。

こんなことになるなら、意地なんて張らないで私から謝れば良かった。

だつてもしかしたら、もう。私はそんな考えを、首を小さく振つて断ち切りました。

彼は大丈夫、だつて……

「俺はさ、もつと世界のこと知りたいんだ。だつてそうだろ?何も知らないで人生が終わつてしまつたら、なんかもつたいたいなつて思わないか?」

彼はこんなところで死なない、あんなことを言う彼が……死んでしまふはずなんて無いじゃない!

私は……、私は彼のそんなところが好きだったのかもしれない。別にたいした仕事をしている訳でも、大きな夢を追い続けている訳でもありません。堅実に仕事をしていて、中規模の会社に勤めるただのサラリーマンの彼でした。

そんな普通の彼だけど、彼の目はなんだか真つすぐ前を見つめていて

「お客さん、到着しましたよ」

はつと気づくと、タクシーは停車していました。

「案外、空いてて早く着きましたよ」

窓の外を見ると、病院の入り口が目の前に見えました。

私は財布からお札を取り出し運転手に渡すと、おつりをもらいタクシーから出ました。私の目の前には病院の出入り口があります。

彼の搬送された病院の入り口です。

「あ……」

気がつけばもう雨はやんでいたようです。空を見上げれば、雲の切れ端から光が射し始めていました。

なんだかそんな空に勇気をもらい、私はその入り口へ向かいます。彼は絶対に、大丈夫です。

## （後書き）

この作品のアイデアは何年も前に思いついて書き残していたものの一つなので、（たいしたものにはなりませんでしたが）自分的にはかなり満足でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0138q/>

---

雨空

2011年1月11日21時02分発行